

九国プレ 2014

解答・解説

九州国際大学附属中学校

— 国 語 —

《解答》 (配点) 一 40点 二 40点 三 20点

一 (40点)

- 問一 ㉑ 發揮 ㉒ 従来 ㉓ 増やし ㉔ 皮肉 ㉕ 意外 (各2点)
問二 A エ B ウ C イ (各2点)
問三 ア (4点)
問四 1 何かおもしろい 2 期待 3 熱心に (各2点)
問五 どうして、からです (完答、3点)
問六 時系列に沿って (描写していくこと。) (抜き出し、3点)
問七 ① 開口一番 ② 出だし (各2点)
問八 エ (4点)

二 (40点)

- 問一 ㉑ えしやく ㉒ あた(り) ㉓ こづつみ ㉔ こらじつ ㉕ あや(らく) (各2点)
問二 A エ B ウ C オ D イ E ア (各2点)
問三 ウ (3点)
問四 徹が訪ねて (3点)
問五 (例) 教頭先生と別れるのはとつてもさびしい。 (3点)
問六 (例) 外国人観光客が、たどたどしい日本語で道を尋ねてきた。 (3点)
問七 1 この世に一つしかない 2 一生に一度しか花をつけない (各2点)
問八 (例) 子供たちのためにも思つて卒業研究を応援してきたが、その研究が私に対する感謝と私の夢をかなえるものだったことを知つたため、心から感動している気持ち。 (4点)

三 (20点)

- 問一 ① ア ② ウ ③ エ ④ イ (各2点)
問二 ① 動・上・質 ② 治・養・成 ③ 見・流・水 (完答、各2点)
問三 ① 信 ② 無 ③ 朗 (各2点)

《解説》

一 (出典『伝える力』池上彰)

問一 漢字は、一画一画ていねいに書きましょう。同音異字語は、意味をしつかり理解して覚えましょう。

問三 文章のテーマである「つかみ」の理解を問う、大切な問題です。ぼう線部六行前にさかのぼると、池上さんの「つかみ」により、会場の人々が動揺し、あれこれ考えている中、直前の誰も予想できない解答をすることで、会場に笑いが起こっているととらえられます。

問四 「つかみ」を行なうことによつて、どういう効果が期待されるかを問う問題です。筆者の「真意」自体を問う問題ではないので、注意してください。後の説明が誘導となり、ぼう線部以降の内容をまとめていくこととなります。聞き手に「熱心に」話を聞いてもらうことをねらっていることがわかります。

問五 問三と重なる問題ですが、会話文が指示内容となっており、その中で重要な文を取り出すという、思考力を問う問題です。直後に「何かおもしろいことを言いそうだな」とあるように、会場に笑いが起こったきっかけとなる話の内容が答えとなります。

問七 「つかみ」とはいつ行なうのかということをも問う問題です。①は二行目の「開口一番」、②は最後から八行目の作文の「出だし」となります。

問八 この文章は、具体例として筆者の体験談が語られ、読者も納得して読んでいける展開となっています。

二 (出典『サボテンの花』宮部みゆき)

問一 動詞をくわしくする言葉で、様子を表す擬態語や擬音語を当てはめる問題です。特に空らんの下に動詞に着目して、適切なものを選ぶようにしましょう。

問三 研究発表を段階ごとに抑えて行き、そのときの会場の反応に注目していく問題です。最初は、「会場でさまざまな声が起こった。」(信じられない)→「沈黙。権藤教頭はたまたまなくなつて…」(疑わしい)→実際に当たる。「ええー！ つと…立ち上がった。」(仰天)→「拍手が起こった。」(感動)の順になります。

問四 場面を構成する要因は、①人間(登場人物)、②時間、③空間(場所)の三つです。そのうちの全部や何かが大きく変わるところが場面の転換となります。この文章では、②時間の変化です。

問五 直後の教頭のメモ内容「君たちサボテンと別れるのはとつてもさびしい」を受けて、「僕たちもおんなじです。」とあるわけだから、教頭と同じ気持ちである様子が読み取れます。

問六 「たどたどしい」とは、「動作や口のきき方が、慣れてなくてスムーズに行なえない様子」を表す言葉です。幼児がよちよち歩く姿をイメージしてください。

問七 ぼう線部直後に、「作って先生にプレゼントすることが目的だった…」とあるので、目的は教頭先生にプレゼントをすることだと分かります。そして、子供たちがプレゼントしたのは、二つのものです。

問八 まず、ぼう線部において、教頭先生が泣いているととらえてください。そして、何を見ながら泣いているかを読み取ると、「じつとテークーラを、花を、手紙を見つめた。」とあるので、子供たちのプレゼントしてくれたものとその思いに、教頭先生は深く感動して、涙を流していると読み取れます。その子供たちの思いに触れたことを理由として、うまくまとめて行きましょう。

三 (語句の問題)

問一 音読みとは、中国で読まれていた読み方が伝わって出来たものです。例えば「手」を「シュ」と読む読み方です。一般的には読んでも意味のわからないものとされていますが、「台」のように音読みしかないものもあるので注意が必要です。訓読みは、漢字に日本語をあてて読みます。だから、意味が分かります。例えば「手」を「て」と読んだり、「春」を「はる」と読んだりする読み方です。どちらも漢字辞典を引くと探すことができますので、いろんな漢字を調べてみてください。

問二 二字熟語の問題です。一度音読みをしても、次の一字とつなげて読むには訓読みをしなければならぬものもあり、熟語として漢字の様々な読み方を知っていなければ解けない問題となっています。漢字の音訓を意識しながら、色んな熟語に触れてみてください。

問三 四字熟語の問題です。四字熟語の意味を知っていると、使われている漢字が想像できるので、漢字だけでなく意味もしっかり覚えていきましょう。

— 算 数 —

1 (小問集合) 4点×10 = 40点

- (1) 296 (2) $\frac{11}{12}$ (3) 20 (4) 70 (5) 84 (6) 5 (7) 29 (8) 84
(9) 15 (10) 143

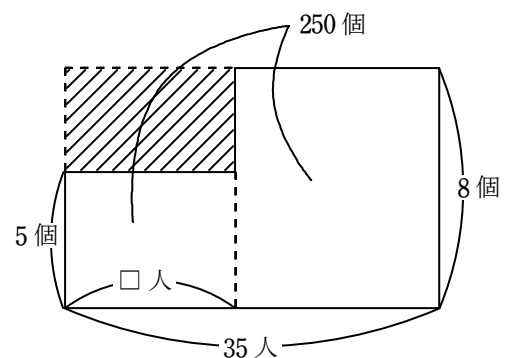
整数、小数、分数の計算は何度も練習しましょう。また、速さや角度、面積を求めるなど基本的な問題です。問題をよく読んで解きましょう。

2 (文章題) 4点×5 = 20点

(1) 10人

お父さんとお母さんが渡したみかんの合計は250個なので、これを面積図で表すと右の図のようになります。

斜線部の面積は、 $35 \times 8 - 250 = 30$
なので、 $30 \div (8 - 5) = 10$
よって、答えは10人となります。



(2) ① 63杯 ② 73杯

月曜から木曜までの売り上げの平均は、 $(57 + 64 + 72 + 59) \div 4 = 63$ 。
よって、月曜から木曜までは1日あたり63杯売り上げたことになります。

月曜日から金曜日までの1日あたりの売り上げが65杯となるには、
この5日間の売り上げの合計が $65 \times 5 = 325$ 杯となるはずですが、

月曜日から金曜までにすでに $57 + 64 + 72 + 59 = 252$ 杯売れているので、
金曜日に $325 - 252 = 73$ 杯売り上げると目標達成となります。

(3) ① 60万トン ② 1.62万トン

茨城県の生産量は3万トンで、その割合は全体の5%なので、日本全体は
 $3 \div 0.05 = 60$ 万トンとなります。

また、埼玉県と千葉県が生産量の割合の差は $8.6 - 5.9 = 2.7\%$
よって、 $60 \times 0.027 = 1.62$ 万トンとなります。

3 (立体図形) 5点×2 = 10点

(1) 2543.4 cm^3

図1の円柱の底面の半径が 9 cm 、高さが 10 cm だから、 $9 \times 9 \times 3.14 \times 10 = 2543.4 \text{ cm}^3$ 。

(2) 3 cm

また、図3の立体の体積が、図1の円柱の体積の $\frac{8}{9}$ なのだから、くりぬいた図2の

円柱の体積は、図1の円柱の体積の $\frac{1}{9}$ 。図1と図2の円柱は高さが同じなので、

図1の底面の面積の $\frac{1}{9}$ が図2の底面の面積となります。よって図2の斜線部の面積は

$9 \times 9 \times 3.14 \times \frac{1}{9} = 9 \times 3.14$ 。よって斜線部の円の半径について半径×半径 = 9 となりますから、答えは 3 となります。

4 (グラフ) 5点×3 = 15点

(1) 3分間

家から公園までの途中に駅があって、家から公園までが 3000 m 、公園から駅までが 900 m 離れているのだから、家から駅までは 2100 m 離れていることとなります。

太郎くんは行きも帰りも分速 70 m で 2100 m 歩いたのだから歩いた時間の合計は $2100 \div 70 \times 2 = 60$ 分です。太郎くんは家につくまでに 63 分かかったのだから、駅にいた時間は $63 - 60 = 3$ 分となります。

(2) 分速 100 m

二郎くんが公園に到着した時間は、太郎くんが家を出発してから 28 分後です。そこから 5 分休んで、太郎くんが家を出発してから二郎くんは 33 分後に公園を出て 63 分後に家に帰り着いています。よって、 3000 m を 30 分で進みますから、二郎くんの速さは $3000 \div 30 = 100$ 。分速 100 m となります。

(3) 15 分後

次郎くんが家を出発したとき、すでに太郎くんが家を出発して 8 分たっており、太郎くんは家から $70 \times 8 = 560 \text{ m}$ の位置にいます。

二郎くんが家から公園まで行くときの速さは $3000 \div (28 - 8) = 150$ で分速 150 m となりますから、二郎くんが出発してから $560 \div (150 - 70) = 7$ 分後に追いつくこととなります。

よって、太郎くんが家を出発してから $8 + 7 = 15$ 分後となります。

5 (平面図形) 5点×3 = 15点

(1) 3 cm (2) 150° (210°も可)

問題文の指示通りに点を取り、線を結ぶと右のような図になります。

ここで、OA, OB, OCは円の半径なのですべて等しいですから、三角形OACは角OAC = 60°から正三角形、三角形OBCは二等辺三角形であることがわかり、図のように角度がわかります。

また、OA = 6 cmで、三角形OACは正三角形なので、AC = 6 cmとなります。

ここで、三角形ABCと三角形BEOに注目すると、三角形ABCを縮小すると三角形BEOになることがわかります。さらに、ABの長さとOBの長さを比較すると、三角形ABCを $\frac{1}{2}$ 倍に縮小したものが三角形BEOであることがわかりますのでBEの長さはACの長さの $\frac{1}{2}$ です。よって、BE = 3 cmとなります。

(3) 6倍

右図のように線を入れてみると、三角形BEOと合同な三角形が、三角形BEOを含めて全部で5個できます。台形OCBEの面積は、3個分です。

一方、正三角形OACの面積は2個分で、さらにその $\frac{1}{4}$ が三角形OFGとなります。

よって、 $3 \div \left(2 \times \frac{1}{4}\right) = 6$ 倍となります。

